会　報

一般社団法人　日本病理学会
〒 101-0041
東京都千代田区神田須田町 2-17
神田 IN ビル 6 階
TEL：03-6206-9070
FAX：03-6206-9077
E-mail：jsp.office@pathology.or.jp
https://pathology.or.jp

一般社団法人日本病理学会　　第 458 号　　令和 8 年（2026 年）6 月刊

1.　病理解剖についてのアンケート結果について（会員専用）

病理解剖における病理解剖の実施者等の実態と，病理解剖の許諾や結果説明への働き方改革の影響，病理解剖を行う意欲等に関するアンケートを，日本内科学会に依頼し，回答をとりまとめました。下記，ご参照くださいますようにご案内申し上げます。

https://e-learning.pathology.or.jp/pluginfile.php/38103/mod_resource/content/1/survey_results3.pdf

2.　第 117 回（令和 10 年度）総会における日本病理学賞について（公募と推薦のお知らせ）

■公募について

標記の件，下記の要領にてご応募をお願いいたします。

日本病理学賞とは：

病理学領域における特定の課題について卓越した業績を挙げていると判断された会員が受賞する。受賞者がその課題の業績を日本病理学会総会において受賞講演を行い，もって会員の病理に関する学術，医療の振興とその普及に資することを企図して日本病理学賞を設ける。

日本病理学賞の内容は，以下の要件を満たすものとする。

（1）　国内外の評価のある業績であること。

（2）　断片としての学術情報ではなく，体系として受け取れる内容であること。

（3）演者の示す問題把握のしかた，課題の解決法，学問観などが会員にとって大いに資するものであること。

尚，Pathology International へ総説を投稿すること

1.　応募資格：日本病理学会学術評議員（ただし昭和 37 年 4 月 2 日以降生まれの者）

2.　募集人員：3 名以内

3.　提出書類：

（1）　日本病理学賞応募用紙

所定の書式に，応募者名，演題名，選考用抄録（1,100 字以内）などを記載したもの。

書式（https://www.pathology.or.jp/news/word/shukudaioubo_2026.docx）

＊書式は毎年変更がございますのでご留意下さい。

（2）　論文業績一覧

講演内容に直接関係のある自著論文 50 編以内の一覧。主要論文（10 編以内）の番号に「○」印を付し，要旨を日本語 300 字以内で記載すること。

（3）　主要論文 10 編以内の別刷

上記（1）～（3）の書類を，順番にひとつの PDF ファイルにつなげてお送り下さい。

＊ひとつのフォルダ内に複数の PDF 化した書類を入れて提出されたものはお受け取りできません。

提出先：日本病理学会事務局

4.　提出方法：

（1）　応募書類送付の前に，応募申請の E-mail をお送り下さい。

E-mail：jsp.office@pathology.or.jp

申請メールと応募書類の 2 つがそろって応募完了となりますのでご留意下さい。

①　E-mail の件名として「令和 10 年度日本病理学賞応募申請」とし，その後ろにご自身の会員番号も記載して下さい。

②　1. 応募書類アップロード予定日時　2. 氏名　3. 所属（教室名まで正式名称を）　4. 演題名を記載して下さい。

（2）　上記（1）の申請メール送信後，応募書類（すべての書類をひとつの PDF ファイルにつなげたもの）を PDF 電子媒体として下記の URL よりアップロードして下さい。

応募書類提出先：https://biz.datadeliver.net/posts/syukudai2026

①　アップロードの際にコメント欄にお名前と会員番号を記入して下さい。

②　ファイル受領から「業務日」3 日以内に事前にお送りいただいた申請メールに受領の旨を返信いたします。受領のメールが届かない場合は，すみやかに事務局宛にお問い合わせ下さい。

③　各種連絡や審査用資料の作成については，会員システム登録の情報を元に行われます。事前に登録内容の確認，修正をお願いします。

5.　締め切り：令和 8 年 8 月 16 日（日）必着

なお，第 117 回日本病理学会における日本病理学賞受賞者は，令和 8 年秋の学術委員会において厳正・公明に選考し，同年 10 月の理事会審議にて決定後，社員総会にて公表いたします。

また，受賞者には以下のご依頼をさしあげますのでご承知置き下さい。

①　発表抄録の日・英両言語での作成

②　「病理学の研究でわかること」（https://pathology.or.jp/ippan/info-trans.html）の原稿作成

■推薦について

日本病理学賞については原則，自薦としますが，学術評議員からの推薦も受けております。下記の要領で，日本病理学賞の推薦をお願いいたします。学術評議員から推薦された候補者については，学術委員長名で推薦されている旨をご本人にお伝えし，応募されることをお勧めいたします。

推薦方法：

日本病理学会ホームページよりダウンロードした所定の書式に，被推薦者名，演題（発表していただきたい内容），簡単な推薦理由，推薦者名，などを記載して下さい。そちらを PDF 化した上で，E-mail 添付にて下記にお送り下さい。

書式（https://www.pathology.or.jp/news/word/shukudaisuisen_2026.docx）

提出先：日本病理学会事務局 jsp.office@pathology.or.jp

E-mail の件名は「令和 10 年度日本病理学賞推薦」として下さい。

推薦締め切り：令和 8 年 7 月 20 日（月）

本件につきましてご質問がありましたら，日本病理学会事務局または学術委員長までお問い合せ下さい。

学術委員長（田中伸哉）

日本病理学会事務局：

TEL　03-6206-9070　E-mail：jsp.office@pathology.or.jp

参照 HP：

https://www.pathology.or.jp/news/members/gakujyutu/advertise-shukudai-260615.html

3. 第 73 回（令和 9 年度）日本病理学会秋期特別総会における病理診断学賞について（公募と推薦のお知らせ）

■公募について

標記の件，下記の要領にてご応募をお願いいたします。

病理診断学賞とは：

特定の疾患や臓器における病理診断について卓越した業績と見識をもつ本学会員が受賞する。受賞者が対象疾患の病理診断に関わる体系的かつ解説的な講演を秋期特別総会で行うことにより，会員の病理に関する学術，医療の振興とその普及に資することを企図して病理診断学賞を設ける。

病理診断学賞の内容は，以下の要件を満たすものとする。

(1)　国内外の評価のある業績であること。

(2)　断片としての学術情報ではなく，体系として受け取れる内容を解説的に説明すること。

(3)　演者の示す疾患分類，診断，レポートなど病理診断に関わる考え方や病理診断学における学問観などが会員にとって大いに資するものであること。

尚，Pathology International へ総説を投稿すること

1. 応募資格：応募時において日本病理学会学術評議員であること
2. 募集人員：2 名以内
3. 提出書類：

1）「病理診断学賞」応募用紙

応募者名，略歴，課題名，応募理由（1,100 字以内）等を記載したもの。

書式（https://www.pathology.or.jp/news/word/shukudaioubo_2026.docx）

※書式は毎年変更がございますのでご留意ください。

※書式は Word 形式です。全体が適切な形で 2 ページ以内に収まるよう配慮して下さい。

2）　病理診断学賞選考用関連業績一覧

応募理由に関する（1）病理診断に関する活動・功績，（2）学術講演の経験，（3）書著，（4）論文（20 編以内）

上記 1），2）の書類を，順番にひとつの PDF ファイルにつなげてお送り下さい。

＊ひとつのフォルダ内に複数の PDF 化した書類を入れて提出されたものはお受け取りできません。

提出先：日本病理学会事務局

4.　提出方法：

(1)　応募書類送付の前に，応募申請の E-mail をお送り下さい。

E-mail：jsp.office@pathology.or.jp

申請メールと応募書類の 2 つがそろって応募完了となりますのでご留意下さい。

①　E-mail の件名として「令和 9 年度病理診断学賞応募申請」とし，その後ろにご自身の会員番号も記載して下さい。

②　1. 応募書類アップロード予定日時　2. 氏名　3. 所属（教室名まで正式名称を）4. 演題名を記載して下さい。

(2)　上記（1）の申請メール送信後，応募書類（すべての書類をひとつの PDF ファイルにつなげたもの）を PDF 電子媒体として下記の URL よりアップロードして下さい。

応募書類の提出先：

https://biz.datadeliver.net/posts/kouen2026

①　アップロードの際にコメント欄にお名前と会員番号を記入して下さい。

②　ファイル受領から「業務日」3 日以内に事前にお送りいただいた申請メールに受領の旨を返信いたします。受領のメールが届かない場合は，すみやかに事務局宛にお問い合わせ下さい。

③　各種連絡や審査用資料の作成については，会員システム登録の情報を元に行われます。事前に登録内容の確認，修正をお願いします。

締め切り：令和 8 年 8 月 16 日（日）必着

担当者は令和 8 年秋の学術委員会において厳正・公明に選考し，同年 10 月の理事会審議にて決定後，社員総会にて公表いたします。

担当者には発表抄録の日・英両言語での作成をお願いします。

■推薦について

病理診断学賞については原則，自薦としますが，学術評

議員からの推薦も受けております。下記の要領で，候補者のご推薦をお願いいたします。学術評議員から推薦された候補者については，学術委員長名で推薦されている旨をご本人にお伝えし，応募されることをお勧めいたします。

推薦方法：

日本病理学会ホームページよりダウンロードした所定の書式に，被推薦者名，演題（発表していただきたい内容），簡単な推薦理由，推薦者名，などを記載して下さい。そちらを PDF 化した上で，E-mail 添付にて下記にお送り下さい。

書式（https://www.pathology.or.jp/news/word/kouensuisen_2026.docx）

提出先：日本病理学会事務局　jsp.office@pathology.or.jp

E-mail の件名は「令和 9 年度病理診断学賞推薦」として下さい。

推薦締め切り：令和 8 年 7 月 20 日（月）

本件につきましてご質問がありましたら，日本病理学会事務局または学術委員長までお問い合せ下さい。

学術委員長（田中伸哉）

日本病理学会事務局：

TEL　03-6206-9070　E-mail：jsp.office@pathology.or.jp

参照 HP：

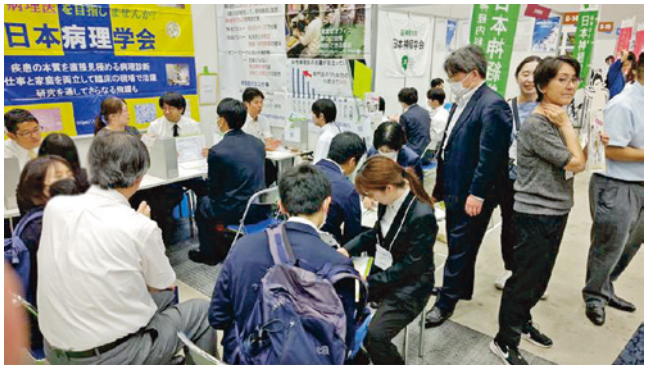
https://www.pathology.or.jp/news/members/gakujyutu/koubo-260615.html

4. 「レジナビフェア 2026 in 東京」活動報告

病理医・研究医の育成とリクルート委員会の主要な活動の一つとして，総勢 12 名【宮崎（岐阜大），藤井・上田（横浜市大），大橋（東京科学大），大橋・谷（新潟大），竹内（京都大），小林・佐野（藤田医大），小川（成田赤十字病院），加藤・本間（病理学会事務局）】で，6 月 21 日（日）レジナビフェア 2026 in 東京（東京ビッグサイト）に参加しました。フェアは円滑な運営体制のもとで開催されました。

病理医の医学生への認知度はかなり上がっており，11 時の開始直後から学生・研修医の訪問が途切れることはなく，ときには 7 名への同時対応で椅子がブースに収まらず，通路にはみ出し，呼び込み担当者がそれを隠すように左右に立って呼び込みをする時間帯もありました。今年は配布アメニティを団扇から，病理学会ロゴと「そうだ！病理入ろう！」の文言を入れたミントタブレットに切り替え，これも好評でした。

最終的に，42 名（医学部学生，研修医，海外医科大学卒業者）が病理医・病理研究者としてのキャリア形成や業務内容について話を聞くため，本学会ブースを訪れました。今年も 5 年生が 24 名と最も多く，4 年生が 10 名とそれに次ぐ来訪者数でした。男女比は 18：24 で今年は女性優位でした。関東地区からの学生が多く，国公立と私立大学の医学生の割合はやや国公立優位でした。中には青森県や鹿児島県からの来訪者もありました。また，中国の医科大学を卒業して日本の大学院に進学している方の来訪が 5 名もあったのも特筆すべきことでした。個別の相談がかなり多



く，30 分以上面談をしていった学生も多数いました。例年，診断医を目指す来訪者には病理を専攻した場合の勤務時間や最終進路に関する柔軟性を強調して話をしています。今回は女性病理医 3 名（大橋，上田，佐野の各先生）にもご参加いただき，女性ならではの視点を交えながら，きめ細かな相談対応を行うことができました。レジナビ全体の参加者は同日に開催されたサッカー日本代表戦の影響もあり 2,671 名と当初予想をやや下回りましたが，会場全体は終始活気にあふれ，病理学会ブースにも多くの来訪者が訪れました。病理学会ブース向かいの日本脳神経外科学会では手術映像からサッカー中継へ切り替わる一幕もあり，一緒に盛り上がる場面もありました。当日お会いした皆さんと，数年後に病理医として，あるいは研究者として再会できることを心より楽しみにしています。多くの若手医師に日本の将来の医学研究を病理の立場から背負ってほしいものです。フェア終了後には委員会メンバーでささやかな反省会を行い，今後も若手病理医・研究医の育成とリクルート活動に積極的に取り組んでいくことを改めて確認しました。

（病理医・研究医の育成とリクルート委員会委員長　宮崎龍彦）